



2020年春号／通巻133号／2020年4月発行

「夢」のつづき

一年前に「新年の夢」と題して、30年来抱き続けたささやかな夢について書かせていただきました。その時から1年が経つ今、創立者メール・アデルではないけれど、次第に時の不確かさが予感されるにつけ、何か焦りに似たものを感じています。

シャミナード師とメール・アデルに共通してあったものは、イエス・マリアへの熱い想い、火を噴く情熱のように思います。その熱が200年以上経た今日、全世界のマリアニストに受け継がれて今日に至っています。そして今…

マリアニスト家族の協働

近年、マリアニストの4枝（信徒マリアニスト共同体、アリアンス・マリアル、汚れなきマリア修道会、マリア会）内に、家族意識の高まりと家族の一員として苦楽を共有し、助け合う関係が成立しつつあることは喜ばしいことです。

インターネットの利用

現在は、インターネットを通して瞬時に全世界と繋がることのできる時代です。すでに教会や修道会など、多くの方々が宣教の手段としてこれを利用しています。昨年、教皇来日の折の報道や、つい先日のコロナウイルスの影響で教会でのミサが行われなかった時、東京のカテドラルでの司教ミサがネット配信され、それに与り霊的聖体拝領をすることもできたことは、記憶に新しいところです。私たちがインターネットを積極的に宣教の手段として活用することを考える必要があるの

汚れなきマリア修道会 Sr. 小林幾久子

ではないかと思えます。MLCでは既に積極的に利用していますが…。

もう数十年も前に、ある司祭がこんなことを言っていました。「これからの高齢者の宣教は、インターネットを通して行われる」と。なるほど、今、その時が来たのかなと実感しています。そのためには、少し知力が必要ですが。

マリアの旗じるしのもとに

現在、色々な教会や修道会が、著名な講師陣を迎えて、多様な講座や黙想会を開催しています。それを見るにつけ、自分の無力さを見せつけられています。しかし、そのテーマや内容をよく見ると、それらの数多いリストの中に「マリア」の名の付くものは見当たりません。正に、私たちの宣教の場として残されているかのようです。「マリアを通してイエスへ」と言われるシャミナード師の思いを実現する場が教会の中で、私たちに残されているのです。私たちが拙い言葉でマリアを紹介する時、母マリアはその人たちに「さあ、あの人の言うとおりにしてください」と言いながら、御子イエスのもとに導いてくださるに違いありません。「マリアに特化した」宣教、これこそマリアニストに可能な宣教であり、創立者からマリアニストに委ねられた宣教なのではないかと感じています。マリアの名のもとに行う講座、祈りの集い、黙想会…、これらを家族が協力して行うことができると夢見ています。夢が正夢となることを願いながら…。



《FMI ご報告とお知らせ》

- * 3月末をもって
- 二宮修道院閉鎖
- 「マリアニスト宣教センター」を調布から町田に移動
- 管区長 Sr. 墨田 第1期終了

- * 4月4日(土) 管区長就任式 10:30
- 第2期 管区評議会メンバー
- 管区長 Sr. 墨田
- 霊生部長 Sr. 小林、Sr. レ
- 教育部長 Sr. レジナ金
- 財務部長 Sr. 伊藤

マリアニスト教育200年

— その2 —

マリア会司祭 木寅 義信

前回はマリア会が教育に携わって200年(1819年—2019年)が経過したことについて述べました。今回はマリア会が宣教の手段として教育を選んだ理由について述べます。

1789年に起きたフランス革命の結果、伝統的なカトリック教会の制度は崩壊し、宗教に対する無知と無関心が蔓延しました。非キリスト教化されたフランスの社会を再構築すべく、シャミナード神父が選んだ手段が教育でした。(1819年)

フランス革命はそれまでの教育制度を払拭し、公教育を提唱しました。フランス革命がカトリック教会に与えた打撃は悲惨なものでしたが、教育界に与えた功績は評価に値するものがあります。それはすべての人が教育を受ける権利を憲法で保障したからです。

1791年9月3日に発布された憲法で、フランス国民公会は次のように宣言しています。「すべての市民に開かれた公の学校が設立されなければならない。すべての市民の尊厳を守るため、無料の学校がなくてはならない。それは王国を分割する地方ごとに設立される。この宣言はすべての人のために学校が開かれ、能力ある者にはさらなる研究ができることを前提とする」と。

その結果、全国を83の県に分け、1000人以上の市町村(後に800人)には1つの公立学校が設立されることが義務づけられました。またフランス語が公用語と決められたことはナポレオンの功績の1つと言えるでしょう。人口2500万人のうち4分の1から3分の1しかフランス語を自国語として使用していなかったと言われるからです。さらに1793年には教育の無償化とすべての子どもが自由に、義務教育を受けることが認められました。

この後、ギゾー法(1833年)やファルー法(1850年)が制定され、フランスの教育制度は充実していきます。第二共和制の下で制定された後者はカトリック教会に有利な法であり、1860年以降はイエズス会を

はじめ、カトリック系私立エリート校の著しい発展に繋がります。ちなみに革命時に56000人を数えた修道女は1808年に12300人に減少しました。しかし1878年には135000人に増加しています。これは

ナポレオンの功績によるもので、信心深く、良き妻、母になるための教育を修道女に委ねたからです。ナポレオン治政下1804年から1813年までに認可された女子修道会の数は95もあったそうです。

フランス革命後には公式修道会の設立は認められませんでした。汚れなきマリア修道会もマリア会もこうした時代背景の下に創立され、シャミナード神父の宣教精神を著わす「新しいぶどう酒は新しい革袋に」のモットーはこのような状況下で生まれました。



創立者 ギョー4・ヨゼフ・シャミナード



アデルド・パツド・トランケレオン



新しいぶどう酒の皮(ルカ5:37-39)



ナポレオン

SM ニュース

1. 新地区長 市瀬 幸一神父の地区本部員は以下の通りです。

地区長	市瀬 幸一 師
靈生部長	清水 一男 師
教育部長	松本 幸徳 師
財務部長	山本 一行 士
評議員	藤原 忠房 士

地区長就任式

3月28日 10:30

シャミナード修道院

2. 今年の誓願

叙階の記念者の方々は、以下の通りです。

誓願 60 周年	平手 勝博 師
	坪光 正躬 師
誓願 50 周年	末吉 克久 師
司祭叙階 50 周年	池田 紀行 師

長い間のマリア会でのご奉仕に感謝いたします。

マリア会地区集会の中で「MLC について」と題して話すチャンスをいただきました。

2019年12月28日(土)の11時から1時間、シャミナード修道院2階の大会議室にて、プロジェクターを使用しての説明です。多くの方が参加されて耳を傾けてくださいました。

- シャミナード師の青年会から始まって MLC の 7 回にわたる国際会議の結果
- MLC が教皇庁信徒評議会から 2006 年にキリスト信者の国際私的会として認められたこと
- 国際会議における各国の文化を紹介する動画
- 日本における取り組みと課題などに関してでした。

今後ともマリアニスト家族として協力していく姿勢を新たにさせていただきましたことを感謝するとともに、ありがとうございました。

2020年度 夏までの MLC の予定

5月16日(土) MLC 総会
シャミナード修道院会議室

5月31日(日) マリアニスト家族の集い
暁星聖堂、暁星学園食堂

★詳細は追って連絡いたします

「教会憲章 第八章」の黙想会に参加して

エトワール・アデル 平井 洋子

2020年2月1日に開催されました清水一男神父様の指導による黙想会に参加しました。

午前中の第一講話は、教会憲章にマリアのことが入れられた目的、その構成について話されました。「救いの歴史はキリストにおいて完成されるが、その中でのマリアの働き」について、つまり教会とマリアの関係、教会の中にいるマリアをどう捉えているかという内容でした。

続いて第二バチカン公会議以前と公会議以後のマリアの捉え方の違いを話されました。以前は、マリアもあたかも仲介者であるかのような行き過ぎた「マリア信心」が多い傾向にあり、聖書に基づいたマリアの見方をあまりしていなかったとのこと。公会議で多くの議論が出されて、マリアを教会の典型として教会の理解の中にマリアを入れた経緯を説明してくださいました。そこで60条にある「唯一の仲介者とマリア」という箇所を読みました。そこにはマリアの役割が唯一の仲介者イエス・キリストの仲介の力を弱めるものではなく、かえってその力を示すものとされています。信仰の中心はイエスですが、マリアはイエスの働きと一致して協力しているということを確認しました。

午後の第二講話は、「マリアと天使のお告げ」(56条)、「あがない主と結ばれたマリア」(61条)、「マリアの執り成し」(62条)など、主だった箇所を読み解説していただきました。教会と密接に結ばれているマリア、教会の模範であるマリアという内容は、200年以上も前に説いたシャミナード神父様のマリア論と同じであることを確認し、その先見性に敬服しました。特に65条の「マリアの聖性」の中では、マリアニストの「マリアの使徒的使命に参与する」ということが示されているとの説明を受け、マリアニストの源泉に触れる思いがしました。

講話の後は各自黙想の時間を持ち、聖堂で祈ったり、聖書を読んだりして講話の内容を深めました。その後、分かち合いがあり、各々疑問点や感じたことなどを話し合い、有意義な一時を過ごしました。分かち合いの後、聖堂で清水神父様司式のミサがありました。

ちょうど「主の奉献」の祝日のミサでしたので、福音朗読にあるシメオンの言葉を聞いたマリアについていつもより深く考えることができました。マリアと教会について充実した内容のあったこの黙想会に参加できたことに感謝しています。

言語の壁を超えた共同体と絆

アリアンス マリアル 田中正江

昨年の11月25日、私は東京ドームでのフランシスコ教皇のミサに参加しました。多くの方が参加出来なかった中、貴重な恵みの時だったと思います。そのミサに参加して特に印象的だったのは多言語によるミサという点です。

改めて日本の教会は、日本にある教会でありながら、日本人の為にある教会ではなく、様々な国の人々と共に信仰生活を送っていく教会であることを実感しました。同時にただ共に集うだけでなく、言葉の壁を超えて、教会を訪れる様々な国の人々と向き合っていく必要があると感じました。

日本は様々な言語が手軽に勉強できる環境にあります。教会を訪れている外国人の中には日本語がわかる人も多い。何らかの手段を用いて、教会に集う外国人に勇気を出して、挨拶をしたり声を掛けた時、自分の信仰生活は世界へと向かっていく、これはイグナチオ教会で私自身が何度も実感したことでした。

アリアンスの会員は現在フランス語圏とスペイン語圏の会員によって成り立っています。会よりの要請により、広報誌の作成と責任者とのやり取りの為に、両言語間の翻訳者が存在し、南米の会員にはフランス語ができる会員も存在しますが、

実際の会員の精神的交流、分かち合いは、それぞれの言語の会員同志の中でしか行われず、スペイン語の会員とフランス語の会員が、本当の意味で分かち合い、心の絆を深めることは長い間出来ませんでした。けれども昨年11月エクアドルの会員が、ローマでのマリアニスト世界家族評議会参加の折にトーゴの会員にスマホやタブレットで主に

使われる WhatsApp 機能を伝授したことにより、その機能を用いて一部のアフリカの会員とスペイン語圏の会員が日々コミュニケーションを取るようになりました。

まだまだ課題はたくさん存在していますが、私たちはこれからも日々模索、実施しながら言葉と絆を超えた本当の意味での共同体の絆を深めていこうとしています。



◎ MLC からのお知らせ

MLCとしてのホームページがあります。
スマホのスタイルで手軽に見ることができます。
URL: <https://www.cafemlc.org>
ホーム (MLCの年間目標、チャレンジ目標、養成プログラム…)、
お知らせ、マリアニストの祈り、ブログ、動画
などがご覧になれます。
MLCを紹介するときなどに、ご活用ください。



■発行：日本マリアニスト家族評議会
問い合わせメール：marianist@marianist.jp
ホームページ：<http://www.marianist.jp/>